

一般社団法人 放射線の正しい知識を普及する会 主催 特別勉強会

講師： 須藤鎮世 先生

略歴 1942年横須賀市生まれ。東京大学薬学部修士課程修了後、塩野義製薬、野村総研、経産省産業技術研究所などを経て、2003年より就実大学教授、2016年より同大学名誉教授。この間、海外研究所勤務やJICA専門家として技術指導。iGENE代表取締役など。薬剤師、薬学博士、第1種放射線取扱主任者。専門は細胞遺伝学、分子生物。

演題：「直線閾値なしモデル＝世紀の科学的スキャンダルを暴く」

日時：平成 29 年 5 月 29 日(月)15:00-17:30

場所：参議院議員会館 地下1階 B104 会議室

幻冬舎ルネッサンス新書

福島へのメッセージ
放射線を
怖れないで!

3.11後、 須藤鎮世
Sutou Shizuyo

放射線量測定に参加した大学教授が、広く社会一般に捧ぐ

- ▶放射線を怖れなくてよい根拠は何か
- ▶毎秒20,000発もの放射線を浴びている私たち
- ▶私たちの体はどのように放射線に应答しているのか

不安に怯える日々、
ピリオドを打つ衝撃の事実

GENTOSHA RENAISSANCE SHINSHO, SINCE 2009 定価(本体800円+税)

幻冬舎ルネッサンス新書

“放射線はどんなに微量でも線量に比例して害がある”と警告されて以降、放射線への怖れが広がった。しかし、その警告の根拠はなにか。現在より10倍も高い放射線のなかから進化してきた私たちは、放射線に十分に対処できるどころか、むしろ体内で有効利用していたのである。福島第一原発の事故による放射線の影響はどの程度なのか。3.11後に現地で放射線量測定にあたった著者が、研究で明らかになった驚くべき事実を解説。

「事故が起きても根拠なく怖がることなく正しく対処すれば未来は切り開けると思っています。ですが、反原発の人たちが何故自信を持って何時迄も執拗に反対運動を続けて居られるのかが不思議だったのです。その答えがノーベル賞受賞者の閾値なし理論であり、それを支える石油資本からの資金だったのかと目から鱗の思いです。

どんなに原子力のメリットを説いても、怖いという感情を解消しなければ聞いてもらえません。その根本の仕掛けをこの本が解き明かしてくれました。考えてみれば原子力技術が葬り去られて喜ぶのは誰かと言えば石油産業ですね。もう戦前から妨害工作を全米科学アカデミーまで巻き込んで進めていたとは、驚きです。この本は放射能を必要以上に怖がっている人を説得する大きな手助けになると思います。」

(AMAZON 書評より)